

第3学年 社会科学習指導案

1 単元名 「まちの人たちのしごと ～どこで買うの そのわけなんだろう～」

2 単元について

私たちの暮らしにとって、消費活動は欠かすことのできないものである。私たちは、生活に必要な物をほとんど店を通して購入している。24時間営業のコンビニエンスストアやスーパーマーケット、広い駐車場をもつスーパーマーケット、いくつかの店が集まる商店街や大型店、その他、移動販売店、道の駅、宅配、通信販売など、私たちの身の周りには、いろいろな形態の店が存在する。それらの店は、消費者側のことを考慮しながらそれぞれ工夫した販売を行っている。

本単元は、自分たちの消費生活に関心をもたせ、地域にある店を調べることによって、店にはお客に喜んで買ってもらうために売り方を工夫し努力していること、お客も品質や価格や考えながら購入していることを理解させることをねらいとしている。また、消費生活を通して自分たちが、広く国内の他地域や外国などともかかわりがあることに気付かせることもねらっており、賢い消費者としての育成にもつなげる単元であるといえる。

本単元では、校区内にあるスーパーマーケットやコンビニエンスストア、駅前の商店街、近郊のドラッグストアや地元の物を中心に販売している道の駅などを取り上げる。どの店についても、児童にとって身近なものであり、消費者側のことを考慮した販売者側の工夫や思い、それぞれの店の特徴などについて考えさせるために適した素材であるといえる。

特にスーパーマーケットについては重点的に取り扱い、多くの人々が利用する理由を予想し、見学やインタビューを通して調べさせることにより、スーパーマーケットで働く人たちの販売の工夫や消費者への思い、環境への配慮などを理解することができると思われる。さらに、自分たちも消費者として、品質や価格、それぞれの店のよさなどを考えて、商品や店選びをしていかなければならないことに気付くことができるであろう。

本学級の児童は、すべて買い物の経験がある。また、大小様々な店が存在することも知っている。買い物をする範囲も、市内だけではなく近郊の都市、交通の便がよい隣県の都市にまで及んでいる。児童は、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどの店を利用しているものの、自分が欲しい物を購入する程度で、消費者に喜んでもらうための販売の工夫や努力、品質や価格を考慮して買う消費者の工夫や思いなどにはほとんど気付いていない。また、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなど、日ごろから利用している店の特徴やそのよさなどについても十分理解しているとはいえない。

指導に当たっては、まず、1週間の買い物調べや家の人への聞き取り調査をさせることで消費活動に関心をもたせたい。次に、この調査を基に、よく利用する店やよく購入する品物について考えさせ、消費者は買う品物によって店を選んでいることに気付かせたい。学習問題は、これらの活動を基に、気付きや感想の中からつくらせたい。

調べ活動では、児童が考えた予想を基に生活グループごとに計画を立てさせ、その計画に従って、スーパーマーケットで働く人の仕事や販売者の工夫、思いなどについて、直接、店の人に見学させたりインタビューをさせたりして調べさせたい。また、買い物に訪れた客にインタビューをさせることにより、その店で買い物をする理由や買い物をするときの工夫、消費者の思いなどについて気付かせたい。

調べたことは、取材メモを基に、「安さ」「品数」「便利さ」「新鮮さ」「その他の工夫など」の視

点を意識させながら一人一人新聞にまとめさせる。新聞には、文字ばかりではなく、写真やイラストなども入れるように指示する。その後、作成した新聞や拡大写真、ちらし(広告)、店内の地図などを使ってグループごとに発表させることにより、各グループが調べたことを全員が共有できるようにする。また、発表会において出てきた問題をはじめ、他の地域とのつながり、環境保全への取り組み(リサイクル)、体が不自由な人やお年寄り、赤ちゃんを連れた親への配慮などについては、写真や資料等を使いながら学級全体で考えさせていきたい。

本時では、「どうして、スーパーマーケットには遠いところから取り寄せた品物をがたくさんあるのだろう?」「地元の品物だけではいけないのだろうか?」という問題から、児童たちにその理由を考えさせる機会を設定したい。具体的には、食料品売場に限定して、「地元の食べ物だけ売っているスーパーマーケット」と「いろいろなところの食べ物を安く売っているスーパーマーケット」、自分が選ぶならばどちらの店がよいか、消費者の立場から選ばせるとともに選んだ理由を考えさせたい。そして、それぞれのメリットとデメリットを出させることにより、それぞれの店がどのような社会(地域・町)を目指しているかにも触れさせたい。このように、単元の終末に本時のような話し合い活動を設定することにより、販売者や消費者の工夫や思いなどについて、これまで学んできたことを整理し、自分の考えをまとめることができるであろうと思われる。さらに、消費者としてのこれからの自分の在り方を考えることにもつながるとと思われる。

3 単元の総括目標

自分たちの町のスーパーマーケットなど販売店について調べることを通して、地域における販売の仕事の工夫や特色を知り、それらが自分たちの暮らしを支えていること、消費する側にも工夫があることに気付けるようにする。また、自分たちの町は販売活動においても広く国内外の他地域とかかわりがあることに気付けるようにする。

4 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
身近なスーパーマーケットを見学し、そこで働く人たちの仕事の内容や工夫について進んで調べ、地域の販売活動に関心をもとうとする。	地域の販売の仕事に携わっている人たちの工夫や消費者の工夫について考えることができる。	スーパーマーケット内の様子やそこで働く人たちの仕事を観察したり、販売者や消費者への聞き取り調査などを交えたりして調べ、調べたことを友達に分かりやすく発表したり、新聞に写真などを使って表現したりすることができる。	地域には、販売に関する仕事があり、それらは、自分たちと深くかかわっており、自分たちの生活を支えていることを理解することができる。

5 単元の指導計画(全16時間)

学習活動	教師の指導・支援	評価【評価方法】	時配
1 スーパーマーケットでの買い物が多	1週間、家族がどこで買い物をするか調べさせることにより、多くの店の中でもスーパ	・ スーパーマーケットでの買い	1

<p>ことに気付き，その実態より学習問題をつくる。</p> <p>スーパーマーケットで買い物をする人が多いのはなぜだろう？</p>	<p>ーマーケットの利用が多いことに気付かせる。また，買い物をするときの留意点についても調べさせる。</p>	<p>物が多いことに気付くことができる。</p> <p>【ワークシート】</p>	
<p>2 スーパーマーケットで買い物をするわけを考える。</p>	<p>各家庭で調べたことを基に，スーパーマーケットでの買い物が多い理由について考えさせる。その他，どんなところで買い物をしているか考えさせることにより，スーパーマーケットの利用価値（利用する場面）についても触れる。</p> <p>広告を基に，スーパーマーケットで買い物をしたくなる理由を考えさせる。</p>	<p>・ スーパーマーケットでの買い物が多い理由について考えることができる。</p> <p>【ワークシート】</p>	2
<p>3 スーパーマーケットについて調べる計画を立てる。</p>	<p>スーパーマーケットでの買い物が多い理由を明らかにするために，どこに行って，どんな方法で，どんなことを調べたらよいか考えさせる。見学するときのマナーやインタビューの仕方についても確認しておく。</p> <p>いくつかの視点から考えさせるため，調べる場所や調べる内容ごとにグループ分けをする。（1グループ…3人～5人程度）</p>	<p>・ スーパーマーケットに行く計画を立てることができる。</p> <p>【ワークシート】</p>	1
<p>4 スーパーマーケットに調べに行く。</p>	<p>理由を明らかにするために，スーパーマーケットに連れて行き，調べさせる。</p> <p>販売者側と消費者側の両側から考えさせるため，どちらにもインタビューをさせる。</p> <p>スーパーマーケットに行き，自分が調べようとしたこと以外で気付いたこと（気になること：学習活動7で活用）についても記録させておく。</p>	<p>・ スーパーマーケットで働く人たちの工夫や思い，消費者の思いについて気付くことができる。</p> <p>【ワークシート・行動観察】</p>	3
<p>5 調べたことをまとめる。</p>	<p>グループごとに視点を意識させながら話し合わせ，スーパーマーケットについて調べたことをまとめさせる。</p>	<p>・ 聞いたり観察したりしてきたことを，視点を考えて，分かりやすくまとめることができる。</p> <p>【新聞】</p>	2
<p>6 スーパーマーケットについて調べたことの発表会を行う。</p>	<p>どんなことについて報告したいか，どんなことが大切なのかを意識させながら，発表させる。</p> <p>個人でもまとめさせるために，発表内容についてはメモを取らせる。</p>	<p>・ 友達の発表を聞き，販売者側や消費者側の工夫や思いについて理解すること</p>	2

		ができる。 【ワークシート】	
7 もっと調べてみたいことを出し合う。 ・ 商品はどこから来ているのだろうか？ ・ リサイクルはどうしているのだろうか？ ・ 盲導犬のポスターはどんな意味があるのだろうか？ ...など	商品をどこから仕入れてきているか見学してきたことを基に考えさせることにより，販売者側の工夫や他の地域とのつながりについて理解させる。 リサイクル活動に取り組んでいることから，環境に配慮した販売をしていることに気付かせる。 お年寄りや体が不自由な人たちのための工夫，消費者にとって利用しやすくするための工夫について考えさせる。	・ 販売者側の工夫や努力，他の地域とのつながりについて考えることができる。 【ワークシート ・ 行動観察】	2
8 スーパーマーケット以外の店について考える。	コンビニエンスストアや商店街，道の駅などについて触れることで，それぞれの店のよさや気になる点などについて考えさせる。	・ スーパーマーケット以外の店について知ることができる。 【行動観察】	1
9 地域の食べ物を優先して販売することについて考えよう。	これまで学習してきたことを基に，地元（佐賀県内に限定）の食べ物を優先して販売することが，販売者側及び消費者側にとってどのようによいのか，また，どのように難しいのか考えさせる。このことにより，これまでの学びの定着を図るとともに，思考・判断力をはぐくむ。	・ 販売者側と消費者側の思いや工夫について考えることができる。 【ワークシート ・ 行動観察】	2 本時

6 本時の目標

スーパーマーケットの食料品売り場において，地元の物（佐賀県産）だけを販売している店の方がよいか，県外や外国の物も販売している店の方がよいか消費者側から考え，その判断理由を書くことができる。（社会的な思考・判断）

7 本時の展開（16 / 16）

学習活動	教師の指導・支援
1 本時の課題を確認する。	本時の学習では，これまでの学習を基に，スーパーマーケットの食料品の販売について，地元の物（佐賀産）に限定して販売すべきか，県外や外国の物も含めて販売すべきか，環境問題（流通），食の安全安心，鮮度，品数，価格等の面から考えることを知らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 地元の物だけを売っているスーパーマーケットといろいろなところの物を売っているスーパーマーケット，自分ならどちらを選ぶか考えよう！ </div>	
2 前時では，どのように判断していた	自分の考えと照らし合わせながら友達の考えを聞

か、グループ内で伝え合う。	くことにより、自分の考えを深めさせる。												
3 食料品について、両者の立場それぞれのメリット及びデメリットについて考える。 (1) それぞれのメリット及びデメリットについて発表する。	両者の立場のメリットやデメリットについて、一人一人自分の意見をもたせるために書かせたワークシートを基に発表させる。消費者側から考えることを確認しておく。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>地元限定して販売</th> <th>県外産・外国産も含めて販売</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>メリット</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 新鮮な物を食べる(売る)ことができる 環境に優しいなど </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな種類の物を食べる(売る)ことができる 価格が安くなるなど </td> </tr> <tr> <td>デメリット</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 価格が高くなる物がある 種類が少なくなるなど </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 輸送にエネルギーが必要になる 地域で作った物が売れない.....など </td> </tr> <tr> <td>目指す社会</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 地元で優しい社会 安全で安心できる社会 環境に優しい社会 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 外国との関係を考える社会 便利な社会 買う人に優しい社会 </td> </tr> </tbody> </table>		地元限定して販売	県外産・外国産も含めて販売	メリット	<ul style="list-style-type: none"> 新鮮な物を食べる(売る)ことができる 環境に優しいなど 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな種類の物を食べる(売る)ことができる 価格が安くなるなど 	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 価格が高くなる物がある 種類が少なくなるなど 	<ul style="list-style-type: none"> 輸送にエネルギーが必要になる 地域で作った物が売れない.....など 	目指す社会	<ul style="list-style-type: none"> 地元で優しい社会 安全で安心できる社会 環境に優しい社会 	<ul style="list-style-type: none"> 外国との関係を考える社会 便利な社会 買う人に優しい社会
	地元限定して販売	県外産・外国産も含めて販売											
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 新鮮な物を食べる(売る)ことができる 環境に優しいなど 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな種類の物を食べる(売る)ことができる 価格が安くなるなど 											
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 価格が高くなる物がある 種類が少なくなるなど 	<ul style="list-style-type: none"> 輸送にエネルギーが必要になる 地域で作った物が売れない.....など 											
目指す社会	<ul style="list-style-type: none"> 地元で優しい社会 安全で安心できる社会 環境に優しい社会 	<ul style="list-style-type: none"> 外国との関係を考える社会 便利な社会 買う人に優しい社会 											
(2) 目指す社会について考える。	それぞれの立場を選択すると、どのような社会になるのかを考えさせ、選択した立場が目指している社会をイメージさせる。												
4 再度、どちらの立場を取るべきか考えを整理しながら判断し、その理由を書く。	目指す社会を加味した判断に結び付けるため、板書において、目指す社会のかぎとなる言葉に印をつける。 【評価】												
5 本時のまとめをする。	前時に書いた判断理由と本時に書いた判断理由を比べさせることにより、思考の深まりが実感できるようにする。												

8 本時の評価

評価規準	地元(佐賀県)産に限定して販売することと県外産や外国産も含めて販売することについてどちらの方がよいか自分なりに判断し、その理由を考えることができる。		
評価基準 支援	A	B	C
	どちらの立場を支持するか表明し、両者の立場を加味した考えや具体例を挙げながら判断理由を書いている。 販売者と消費者の両側から判断理由をできるだけ多く考えることを伝える。	どちらの立場を支持するか表明し、どちらか一方の立場からの見方で判断理由を書いている。 異なる立場の意見を加味したり、具体例を挙げたりするように声を掛ける。	判断理由を書くことができずにいる。 板書により本時の学習を振り返らせ、自分の考えに近い意見から、それを判断理由として書くように指示する。
評価方法	ワークシート 発表		